

2024_0212「オホーツク海の流氷（衛星動画）」日々の理科 3476号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

気象衛星の観測対象は、主に「対流圏の雲」です。雲の種類、形状やその変化によって、近い将来（数時間～数日後）の気象変化を予測するためです。しかし実はいろいろなものを「副産物」として観測しているのです。

たとえば、火山噴火時の噴煙、地上の積雪の様子、黄砂の拡散、海流によるプランクトンの分布などです。流氷の様子もその一つです。今の時期、オホーツク海には流氷（海氷）が広範囲に存在していますが、気象衛星はその分布や動きを克明にとらえています。流氷の動きは主に風向きに依存します。今回の動画では、オホーツク海を吹き抜ける強い北西風によって、流氷がオホーツク沿岸や知床半島に押し寄せる様子が映っています。またオホーツク海の真ん中で、流氷が時計回りの渦をつくっていることもわかります。動画を早回しにするとよくわかりますので、どうぞ試してみてください。

(2024年2月中旬／気象衛星映像)

